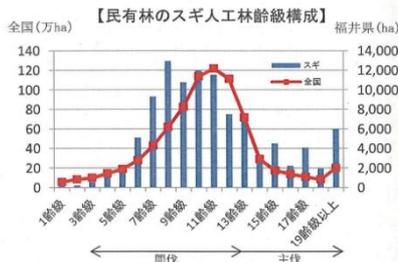


福井に適応したコンテナ苗生産技術の開発 (R2~6年度)

現状

○県内の12万haの人工林は充実期を迎え、本格的に利用できる段階となっている。

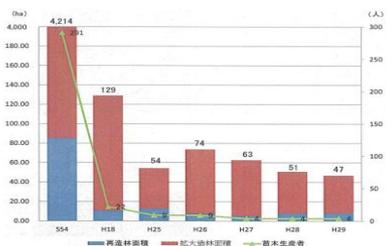


▲民有林のスギ人工林年齢級別構成 森づくり課調べ (H29.3.31現在)

○「木を伐って使って植える」という森林資源の循環利用を進めていくため、**市場のニーズに即した多様な樹種による再造林化**が求められている。

○県内の林業事業者から、**伐採と造林の一貫作業システム**に対応が可能な生産方法に期待が寄せられている。

○また、県内の苗木生産者は少数で露地栽培をしており、収益性が低く、労務がかかっている状況にある。



▲造林面積および苗木生産者の推移 県産材活用課調べ



▲露地による実生苗の栽培 (従来の育苗方法・越前市)



「再造林推進に向けた多様な樹種による種苗生産技術の開発」が望まれる。

課題

1. 福井の気候風土に適応した有用樹の選定
2. 収益性の高い、優良種苗の生産



▲コウヨウザン



▲コナラ



▲コンテナ苗の生産 (イメージ)

研究内容

1. 発芽率促進技術の開発

・種子の精選、低温処理、土中保存 (有用樹種12種類)

①ウラジログシ、②エノキ、③カツラ、④クリ、⑤シラカシ、⑥スタジイ、⑦センダン、⑧ホオノキ、⑨ハリギリ、⑩コウヨウザン、⑪ムクノキ、⑫コナラ

2. 得苗率を高める播種技術の開発

・それぞれの樹種に適した播種・移植方法の開発

3. 優良種苗を生産できる育苗管理技術の開発

・施肥、灌水、照度、野外馴化等

目標および期待される効果

- コンテナ苗生産者 担い手の育成
- 多様な樹種によるコンテナ苗の生産体制の確立
- 森林資源の循環利用の拡大